天野秀樹・龍岡寛幸・鈴木悦子・藤井朋子・西勉(2017),「アクティブ・ラーニングによりグローバルマインドを培う広島大学附属東雲中学校の取り組み実績 ― 総合的な学習の時間における「SMARTプログラム」を通して―」,広島大学附属東雲中学校研究紀要「中学教育第48集」,75―80.

アクティブ・ラーニングによりグローバルマインドを培う広島大学附属東雲中学校の取り組み実績

― 総合的な学習の時間における「ＳＭＡＲＴプログラム」を通して ―

広島大学附属東雲中学校研究部
天野　秀樹　・　龍岡　寛幸
鈴木　悦子　・　藤井　朋子
西　　勉

１．はじめに

広島大学附属東雲中学校(以下,東雲中学校と略記)では,2012(平成 24)年度よりグローバル時代をきりひらく資質・能力(東雲小学校・東雲中学校,2015)の原動であるグローバルマインドを培うために,アクティブ・ラーニングによる教育活動を模索し,実践してきた。そのうち,本稿では,総合的な学習の時間に展開してきた「SMART(修学旅行をいかす活動)」の取り組みについて論述する。なお,東雲中学校ではグローバルマインドを,「自分とは異なる考え方や価値観をもつ世界中の人たちに対して,相手の気持ちを理解し,その上で自分自身のことを伝えたいと思える気持ちや伝えようとする意欲,態度」と捉えている。

２．ＳＭＡＲＴプログラムについて

ＳＭＡＲＴプログラムは,アクティブ・ラーニング（溝上,2014）を通してグローバルマインドを培うために,2012（平成24）年度より東雲中学校で実践してきた教育プログラムである。

本節では,全体方針やプログラムの概要,カリキュラムの作成方法について述べる。

2-1. ＳＭＡＲＴプログラムの全体方針

ＳＭＡＲＴは,「東雲中学校（Shinonome）の生徒は,自らの使命（Mission）を自覚し,問題発見したことを現地で探究（Research）し,その過程において見通しをもった行動（Action）をとる修学旅行（Tour)」のことである。また,ＳＭＡＲＴプログラムは,第１学年から第３学年までの修学旅行をいかした総合的な学習の時間における教育プログラムである。

実践においては,アクティブ・ラーニングを通してグローバルマインドを培うことを目指して,「国際人になろう！」をキーワードとして取り組んできている。

以上のことは,ＳＭＡＲＴプログラム構想図として,**図１**のように表すことができる。

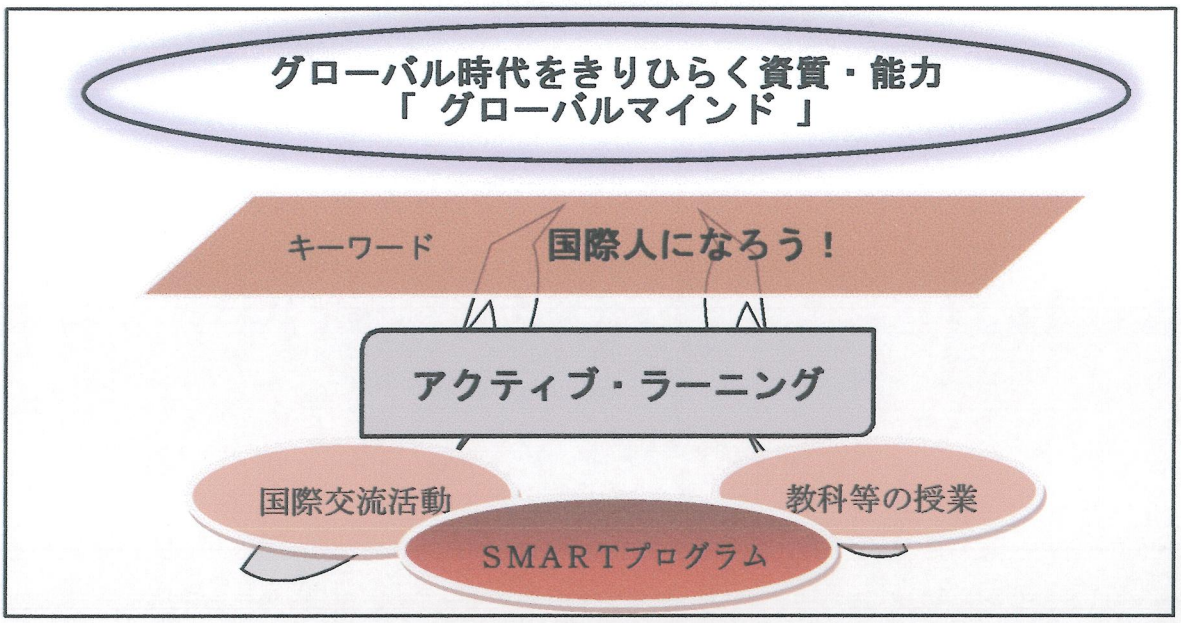

図１　ＳＭＡＲＴプログラム構想図

2-2. ＳＭＡＲＴプログラムの概要

アクティブ・ラーニングを通してグローバルマインドを培う教育プログラムを確立するための東雲中学校が実践してきたＳＭＡＲＴプログラムは，次の**表２**である。

表２　ＳＭＡＲＴプログラム

時　期	内　容
第１学年 前　半	自分の興味・適性について，研究テーマについて Pre　Task　Trip（広島市近郊）
第１学年 後　半	Pre　Research　Tour に向けた 研究テーマ・内容・方法の作成及び行程の計画
第２学年 前　半	Pre　Research　Tour（呉市近郊，尾道市近郊ほか） 研究のまとめ・提案及び交流
第２学年 後　半	ＳＭＡＲＴに向けた 研究テーマ・内容・方法の作成及び予備調査
第３学年 前　半	ＳＭＡＲＴに向けた 研究の再考及び行程の計画
ＳＭＡＲＴ （７月）	Task　Trip　・・・　京都近郊で行うミッションが朝発表され， それに向け京都に向かいながら行程を計画し，協働して遂行する。 Research　Tour　・・・　紀伊半島を中心として各人の研究テーマを 遂行できるように，協働して現地調査を行い，探究活動を展開する。
第３学年 後　半	研究のまとめ・提案 研究の報告・交流　～成果発表会（全校）～

また，このプログラムを時系列に並べると，ＳＭＡＲＴプログラム系統図として，**図３**のように表すことができる。

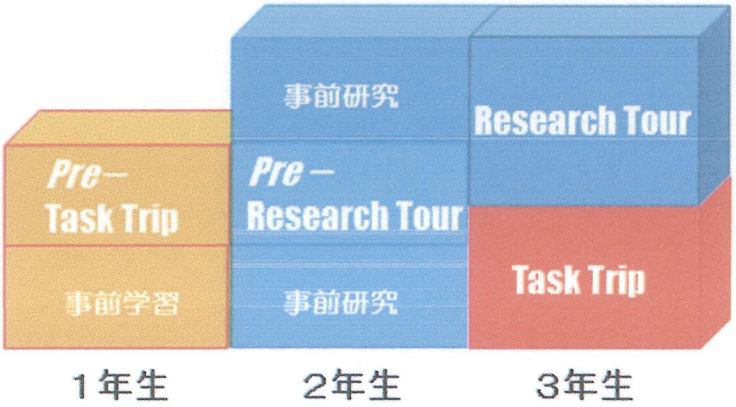

図３　ＳＭＡＲＴプログラム系統図

2-3. ＳＭＡＲＴプログラムの作成にあたって

上述したＳＭＡＲＴプログラムを実践するにあたって，東雲中学校では，今年度は「ＩＣＴの有効活用について」,「パーソナル・ポートフォリオの有効活用について」の研修を行っている。

また，このＳＭＡＲＴプログラムを作成するにあたっては，数々の研鑽を重ねてきている。その主たるものは，次の３つである。

第一は，「プロジェクト学習」（鈴木，2006）によるアクティブ・ラーニングの実現である。東雲中学校では，鈴木氏の文献研究を進めるとともに，３度招聘して研修を行っている。その結果，アクティブ・ラーニング型学習イメージを，東雲中学校では，**図４**のように捉えている。

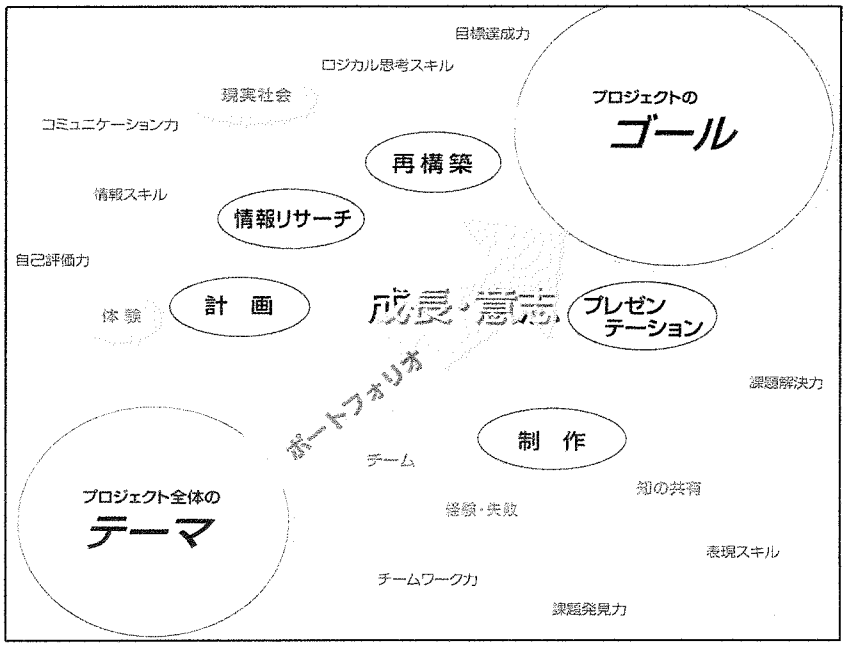

図４　アクティブ・ラーニング型学習イメージ（東雲中学校）

第二は,「時代の要請に応じた協働学習」（朝倉・池本・東雲中学校, 2010）によるアクティブ・ラーニングの実現である。東雲中学校では, 朝倉［2015（平成 27）年度より, 東雲中学校の校長に着任］の指導のもと, 新時代を見通した教育をデザインする手法を取り入れるとともに, 東雲中学校の生徒に適した活動にする視点からＳＭＡＲＴプログラムが完成している。

第三は,「グローバルリーダー」（東雲中学校, 2014）育成の視点によるアクティブ・ラーニングの実現である。先進的な教育を展開しているシンガポールの Temasek Junior College では, 英語力や学力の育成だけでなく, グローバルリーダー育成のための教育プログラムを実践している。東雲中学校においても, グローバルリーダー育成の視点からプロジェクトマネジメント力の伸長が期待できるプログラムを作成している。ＳＭＡＲＴは, 問題を発見し, その解決に向けて見通しをもち, 仲間と協働してミッションを遂行する活動である。また, 旅行の行程を予算や安全性に考慮しながら自分たちでデザインする活動でもある。したがって, 必然的にプロジェクトマネジメント力が求められる。プロジェクトマネジメント力の育成は, グローバルマインドを培ううえで重要な位置づけとなる。

３．ＳＭＡＲＴプログラムにおける各学年の取り組み

ＳＭＡＲＴプログラムは, 第１学年から第３学年までの修学旅行をいかした総合的な学習の時間における教育プログラムである。

本節では, 各学年における取り組みの概要を, 順に述べる。

3-1. 第１学年の取り組み

（１）目標

お互いの考え方を尊重して, 協働して課題解決できるようにすることを通して, 国際人になるための基盤をつくる。

（２）学習内容

内容は, ①研究テーマにかかわること, ②研究方法にかかわること, ③研究発表にかかわること, ④Pre Task Trip, の４つに大きく分けることができる。次に, これらの概要をあげる。

①研究テーマにかかわること

「広島」にかかわることで研究テーマを設定することを通して, 自分の興味や適性を知る学習である。そのために, イメージマップの作成やインターネット検索による情報収集, 通学地域でのインタビュー, お好み焼きづくり体験などを行ってきた。これまでに設定されたテーマの例をあげる。

（テーマ例）村上海賊，厳島，帝釈峡，夾竹桃，原爆資料館，大久野島，広島造幣局，
はっさく大福，三次ピオーネ，尾道ラーメン，ワニ料理，カキ，
旧市民球場，サンフレッチェの歴史，綾瀬はるか，Perfume，マツダ車　etc

②研究方法にかかわること

研究を進めるうえで必要な基礎的なスキル学習である。これまでに行われた活動内容をあげる。

（活動内容）インタビューの仕方，プレゼンテーションの仕方，情報収集・処理の仕方，
アンケートのとり方，電話対応の仕方，グラフの作り方，レポートの作り方，
リスニング，礼儀・マナー，タブレットの使い方，携帯電話の使い方　etc

③研究発表にかかわること

「すごい！広島」をテーマに２回，学年発表会を実施している。１回目の発表会は，保護者の方にも視聴していただき，すべて手作りで準備をさせた。その後，第３学年の発表会を視聴し，２回目の発表会を実施した。２回目は，練習時からタブレットで撮影しながらリハーサルすることを通して，プレゼンテーションスキルの向上をねらった。また，タブレットや電子黒板によるＩＣＴを活用した発表も取り入れさせた。

④Pre Task Trip

広島駅に集合し，４人グループそれぞれに複数の Task が課せられ，その解決を目指して広島市内をお互いの考えを付き合わせながら探究する Trip である。

Task の内容は，例えば，「平和公園を訪問している外国人の方に関する広島の印象を調べなさい！」である。

3-2. 第２学年の取り組み

（１）目標

自分とは異なる考え方をもつまわりの人たちに対して，相手の気持ちを理解し，その上で自分自身のことを伝えたいと思える気持ちを養う。

（２）学習内容

内容は，Pre Research Tour とその準備（事前学習），報告（事後学習）が主たる活動である。次に，これらの概要をあげる。

Pre Research Tour は，尾道市近郊などを探究活動の拠点として，自分が設定したテーマを解決するために，現地調査などを実施する Tour である。これまでに設定されたテーマは，例えば，「千光寺から見る人と猫の関係」である。実際には，竜王山や因島など，広範囲での活動となるため，探究地域ごとに４人グループを構成して取り組む。

3-3. 第３学年の取り組み

（１）目標

自分とは異なる考え方や価値観をもつ人たちに対して，相手の気持ちを理解し，その上で自分自身のことを伝えたいと思える気持ちや伝えようとする意欲，態度を養う。

（２）学習内容

内容は，「Task Trip」と「Research Tour」などで構成される「ＳＭＡＲＴ」とその準備（事前学習），発表会（事後学習）が主たる活動である。次に，これらの概要をあげる。

「Task Trip」は，広島駅に集合し，４人グループそれぞれに京都近郊で行う複数の Task が発表され，その解決を目指して京都に向かいながら行程を計画し，協働して遂行する Trip である。Task の内容は，例えば，「金閣寺を訪問している外国人の方に関する日本の印象を調べなさい！」である。

「Research Tour」は，紀伊半島（伊勢，白浜，長浜など）を探究活動の拠点として，各人が設定したテーマを遂行できるように，協働して現地調査を行い，探究活動を展開する Tour である。

例えば，野球部に所属するＨくんは，部活動の際に手にするロジンバックの肌触りや臭いに関心を示したことを研究動機として，「紀州備長炭を利用した人の体にやさしいロジンバックの開発」を研究テーマに設定した。そして，現地での取材や体験活動をもとに仲間と協働して新たなロジンバックの開発プランを作成するような一連の研究活動を行った。

４．ＳＭＡＲＴプログラムによる実践の成果

アクティブ・ラーニングを通したＳＭＡＲＴプログラムによる実践の成果を，本節では，最終段階である第３学年に焦点をあてて述べる。

昨年度の全国学力・学習状況調査の生徒質問紙において，「総合的な学習の時間の授業で学習したことは，普段の生活や社会に出たときに役に立つと思いますか」という質問に対する結果は，次の**表５**のようになっている。

表５　「総合的な学習の時間の内容は社会で役立つか」（全国学力・学習状況調査）

	１（当てはまる）	２（どちらかといえば，当てはまる）	３（どちらかといえば，当てはまらない）	４（当てはまらない）
東雲中	３９．７（34.6）	４３．６（44.9）	１０．３（14.1）	６．４（6.4）
全　国	２６．０（23.1）	４８．５（48.1）	１８．７（20.7）	６．７（7.9）

※ 表の数値は百分率（%）であり，（　）内の数値は一昨年度の結果である。

また，「総合的な学習の時間では，自分で課題を立てて情報を集め整理して，調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」という質問に対する結果は，次の**表６**のようになっている。

表６　「総合的な学習の時間ではPDCAサイクルで活動しているか」（全国学力・学習状況調査）

	１（当てはまる）	２（どちらかといえば，当てはまる）	３（どちらかといえば，当てはまらない）	４（当てはまらない）
東雲中	５９．０（47.4）	２９．５（38.5）	１０．３（11.5）	１．３（2.6）
全　国	１８．２（16.2）	３９．７（38.5）	３０．１（31.4）	１１．８（13.7）

※ 表の数値は百分率（%）であり，（　）内の数値は一昨年度の結果である。

以上の生徒質問紙の調査結果から，東雲中学校で実施しているＳＭＡＲＴプログラムの実践は，５年目となる今年度さらに充実度を増しながら，普段の生活や社会に出たときに役に立つという視点において，グローバルマインドを培う一助になっていると判断できる。

また，昨年度のＳＭＡＲＴの活動後に，第３学年の生徒は，国語科の授業の中で「後輩へ贈る修学旅行のTaskを作ろう！」という学習活動に取り組んだ。生徒は，安全，時間，学習の意義・楽しさ，予算の観点から自分たちで考えた修学旅行のＴａｓｋ案を吟味する過程で，自らの経験や興味・関心を織り交ぜながら意見を出し合い，分析することができていた。さらに，昨年度の第３学年の生徒に対する事後アンケート調査の結果によると，「自分の判断で行動する力に関する自信」や「さまざまな考えを受け入れる柔軟性に関する自信」の項目について，６割以上の生徒が肯定的な回答をしていた。

これらのことから，東雲中学校の生徒がＳＭＡＲＴプログラムによる実践を通して，チャレンジ精神や柔軟性にかかわる自信を高めていった様子がうかがえる。ＳＭＡＲＴプログラムによる実践が，グローバルマインドを培う一助になっていると判断できよう。

5．おわりに

本稿では，東雲中学校が2012（平成24）年度よりグローバル時代をきりひらく資質・能力の原動であるグローバルマインドを培うために，アクティブ・ラーニングによる「ＳＭＡＲＴプログラム」の実践を論述した。この実践は，グローバル人材育成推進会議（2012）で定義されたグローバル人材の要素とも密接に関連した意義深い実践だと考えられる。また，全学年において組織的・計画的・継続的に協働して探究するプログラムを実践できているところにも大きな価値を感じている。今後もさらなる内容の充実を目指して，東雲中学校の実践は継続しながら，発展していく。

【 引用・参考文献 】

広島大学附属東雲小学校・東雲中学校：「グローバル時代をきりひらく資質・能力」を培う教育の創造 ―協働的問題解決ができる子どもの育成をめざして―，東雲教育研究会実施要項，2015.

溝上慎一：アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換，東信堂，2014.

鈴木敏恵：ポートフォリオ評価とコーチング手法，医学書院，2006.

朝倉淳，池本よ志子，広島大学附属東雲中学校：問題解決の基礎的能力を育成する新時代の総合的な学習，渓水社，2010.

広島大学附属東雲中学校：社会のグローバル化に対応した初等中等カリキュラムの開発Ⅱ―大学と連携した研究開発システムの構築に向けて―，平成25年度広島大学附属学校園研究推進委員会報告書，33-38，2014.

グローバル人材育成推進会議：グローバル人材育成戦略（グローバル人材育成推進会議　審議まとめ），2012.